

# 特集

## 道路を測る新たな技術

就業者の高齢化は、土木業界の大きな問題となっている。これまで熟練技術者が支えてきた工事の現場、維持管理の現場では、従来のやり方で現場の生産性、道路の安全性を確保することが難しくなってきている。一方、2020年は新型コロナウイルス感染症が全世界を巻き込んだ。このため、北海道内の観光産業は停滞するとともに、リモートワークが急速に進み、人やモノの移動が大きく様変わりした。このような状況のもと、国土交通省では、デジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革する「インフラDX（デジタル・トランフォーメーション）」が検討されている。この実現においては、道路の現場、交通の実態を的確に「測る」技術が非常に重要である。

本特集では、「道路を測る新たな技術」をテーマとして、室蘭工業大学 もの創造系領域社会基盤研究ユニット 准教授 有村 幹治氏に、さまざまな機器により観測される交通関連のビックデータの概要や、道路交通の分析事例を紹介いただき、交通関連ビックデータを活用した今後の政策立案の方向性についてご寄稿いただいた。

次に、冬の道路状況を測る技術として、株式会社 シー・イー・サービス 執行役員 正岡 久明氏から、道路上で発生する視程障害や吹きだまりを的確に予測するシステムの開発についてご報告いただいた。さらに、革新的技術の活用等により建設現場の生産性向上を図る「i-Construction」を推進する、株式会社砂子組 執行役員 企画営業部長（兼）ICT施工推進室長 真坂 紀至氏には、工事現場を測る技術の導入事例やICT活用による生産性向上の効果などについてご紹介いただいた。

新たな道路の整備・工事、いまとある道路の維持管理の生産性向上、そして道路交通のサービス向上を図っていくためのインフラDX（デジタル・トランフォーメーション）のあり方を考えるきっかけとなれば幸いである。

### 基調レポート

#### 移動をはかる： データ駆動型社会と「証拠に基づく政策立案(EBPM)」

室蘭工業大学 もの創造系領域社会基盤研究ユニット 准教授 有村 幹治

### レポート1

#### 吹きだまりや視程障害を予測する新たな技術の開発～吹雪丸の試行

株式会社 シー・イー・サービス 執行役員 正岡 久明 氏

### レポート2

#### 中小企業が挑戦する i-Construction

株式会社 砂子組 執行役員 企画営業部長（兼）ICT施工推進室長 真坂 紀至 氏

